

春の星空ガイド

4月中旬 22時ごろ
 5月上旬 21時ごろ
 5月中旬 20時ごろ
 6月上旬 19時ごろ



- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星

星図の使い方

- ①自分が向いている方位を確認する
- ②その方位を下にして星図をもつ
- ③そのまま空にかざす

月のこよみ

○新月	4/23	●上弦の月	5/1	●満月	5/7	●下弦の月	5/14
○新月	5/23	●上弦の月	5/30	●満月	6/6	●下弦の月	6/13
○新月	6/21	●上弦の月	6/28	●満月	7/5	●下弦の月	7/13

★一番星・金星 そろそろお別れ！

夕方に西の空に「一番星（いちばんはじめに見える星）」の金星が輝いています。ただし、見ることは5月上旬まで。6月下旬から年末にかけて、「一番最後まで見える星」として、日の出前の東の空に見えるようになります。

★春の目印「北斗七星」と「春の大曲線」

春の星座の目印「北斗七星」とは、北にある“ひしゃく”の様な7つの星の並びです。“ひしゃく”とは、お寺や神社で水をすくう時に使う道具のことで、北の空を眺めてみると7つの星が横から見た“ひしゃく”のような形に並んでいる姿を見ることができます。“ひしゃく”の持ち手のカーブをそのまま伸ばしていくと、オレンジ色の一等星アルクトゥールスを見つけることができます。さらに伸ばしていくと、青白い一等星スピカがあります。アルクトゥールスはうしかい座、スピカはおとめ座の星で、空に描いたカーブが「春の大曲線」です。

★「春の大三角」からしし座を見つけよう！

アルクトゥールス、スピカにしし座の2等星デネボラを結んだ三角形が「春の大三角」です。デネボラはしし座のしっぽの星です。ししの手がかりを掴んだら、右手に“はてなマーク（？）”を左右反対にした星の並びが見えてきます。こちらがしし座の頭から胸にかけての星の並びです。ししの胸元に輝くのは一等星レグルスです。